

事業報告書及び収支決算報告書

(平成23年10月1日～平成24年9月30日)

I. 事業報告

1 世界少年野球大会の開催事業

「第22回世界少年野球大会 三重・奈良・和歌山大会」の開催

- (1) 大会趣旨 「野球を正しく全世界に普及・発展させると同時に世界の青少年に友情と親善の輪を広げる」という財団設立の趣旨を実現するとともに、台風12号の被災地である紀伊半島の方々に勇気と希望、笑顔を与え、絆をつなげることを目的に開催した。
- (2) 主 催 財団法人世界少年野球推進財団
三重県 奈良県 和歌山県
熊野市 下北山村 新宮市 紀宝町 御浜町
財団法人日本野球連盟
- (3) 実施主体 第22回世界少年野球大会三重・奈良・和歌山大会実行委員会
- (4) 主 管 国際野球連盟
- (5) 後 援 総務省 外務省 文部科学省 厚生労働省 経済産業省
国土交通省 公益財団法人全日本軟式野球連盟 NHK
NHKグローバルメディアサービス 朝日新聞社
毎日新聞社 読売新聞社 伊勢新聞社 中日新聞社
- (6) 協 力 全日本アマチュア野球連盟
日本プロフェッショナル野球組織
アメリカ・メジャーリーグ・ベースボール
日本航空

(7) 協 賛

株式会社エバーライフ	アサヒ飲料株式会社
カシオ計算機株式会社	財団法人自治総合センター
ジャパンローヤルゼリー株式会社	
セコム株式会社	ソフトバンクグループ
大正製薬株式会社	株式会社デサント
株式会社東京ドーム	株式会社東芝
TOTO株式会社	ナガセケンコー株式会社
西川産業株式会社	ミズノ株式会社

(8) 協力会社

株式会社GABA 紀南病院 JA全農たまご株式会社
 株式会社中央軒煎餅 日新航空サービス株式会社
 株式会社千修
 株式会社博報堂DYメディアパートナーズ
 株式会社ホンダ四輪販売三重北
 雪印メグミルク株式会社

(9) テレビ放送 NHKEテレ
 「バットに想いをこめた夏 第22回世界少年野球大会
 三重・奈良・和歌山大会」
 8月26日(日) 14時25分から30分間放映

(10) 大会概要 世界13か国・地域から参加した少年少女125人が8つの
 グループに分かれて野球教室に参加して野球の基本を学んだ。
 また、中華人民共和国と大韓民国のチームを招待して、三重、
 奈良、和歌山県内の12チームが国際交流試合を行った。

野球教室は午前中に行い、午後の交流行事で台風12号の被災地を訪れて、被災地の子どもたちや老人クラブのお年寄りたちと交流を深めた。

交流試合は初日を除いて午前を実施した。試合の後、参加したチームが野球教室とは別個に交流行事を行い、開催地の子どもたちと親交を深めた。

(11) 期 間 平成24年7月22日(日)から30日(月)まで

(12) 会 場 [野球教室]
 くまのスタジアム、健康運動広場、多目的グラウンド
 (熊野市・山崎運動公園内)
 [国際交流試合]

くまのスタジアム（熊野市）
下北山スポーツ公園（下北山村）
くろしおスタジアム（新宮市）

(13) 宿 舎 三重県立熊野少年自然の家（熊野市）
熊野市青年の家（熊野市）
下北山スポーツ公園内宿泊施設（下北山村）

(14) 参加者

1. 野球教室 125名（国内65名、海外60名）
2. 国際交流試合
 - 中華人民共和国 18名
 - 大韓民国 19名
 - A, M Yankees（御浜町） 17名
 - オール熊野A（熊野市） 18名
 - 北山スーパーモンキーズ（下北山村） 17名
 - 大和子供会（五條市） 17名
 - 十津川少年野球クラブ（十津川村） 17名
 - 川上ビッグボーイズ（川上村） 15名
 - みさきストロングス（新宮市） 17名
 - 新宮パワーウェーブ（新宮市） 18名
 - 新宮選抜A（新宮市） 18名
 - 蓬萊フレンズ（新宮市） 17名
 - 紀宝選抜（紀宝町） 18名
 - オール熊野B（熊野市） 18名
3. IBAFコーチ 8名
4. ホストスタッフ 31名
5. シャペロン 12名
6. アシスタントコーチ 18名
7. 国際交流試合担当者 216名
8. 交流行事協力者 300名
9. 大会役員、事務局 56名

(15) 参加国・地域

【米 州】アメリカ合衆国 カナダ ベネズエラ

【アジア】日本 中華台北 マレーシア インド 中華人民共和国
大韓民国

【欧州】フランス チェコ スペイン
【大洋州】フィジー ニュージーランド
【アフリカ】コートジボワール

(16) 日程

7月21日(土) 各国少年少女到着 受付 登録 用具配布

22日(日) 各国少年少女到着 受付 登録 用具配布
交流試合参加の大韓民国、中華人民共和国チーム到着

23日(月) ウェルカムパーティー(熊野市・みどりや)

24日(火) 開会式 記念撮影(熊野市・くまのスタジアム)
野球教室①(熊野市・健康運動広場、多目的グラウンド)
交流試合Ⅰ(熊野市・くまのスタジアム)

25日(水) 野球教室②(熊野市・くまのスタジアム、健康運動広場)
交流行事AⅠ(海の体験 熊野市)
交流試合Ⅱ(奈良県下北山村・下北山スポーツ公園)

26日(木) 野球教室③(熊野市・くまのスタジアム、健康運動広場)
交流行事AⅡ(ミニ運動会 三重県紀宝町)
交流試合Ⅲ(奈良県下北山村・下北山スポーツ公園)
交流行事BⅠ(とことん川遊び 奈良県下北山村)

27日(金) 野球教室④(熊野市・くまのスタジアム、健康運動広場)
交流行事AⅢ(グラウンドゴルフ 三重県御浜町)
交流試合Ⅳ(和歌山県新宮市・くろしおスタジアム)
交流行事BⅡ(イルカ、クジラショー見学 和歌山県
太地町・くじらの博物館)

28日(土) 野球教室⑤(熊野市・くまのスタジアム、健康運動広場)
交流行事AⅣ(祭り体験 熊野市)
交流試合Ⅴ(和歌山県新宮市・くろしおスタジアム)
交流行事BⅢ(ミニ運動会 くろしおスタジアム屋内運
動場)

グッドウイルパーティー（熊野市文化交流センター）
記念パーティー（熊野市・熊野倶楽部）

29日（日） 野球教室⑥（熊野市・健康運動広場、多目的グラウンド）
交流試合Ⅵ（くまのスタジアム）
記念植樹（くまのスタジアム）
閉会式（くまのスタジアム）

30日（月） 各国少年少女帰国
大韓民国、中華人民共和国チーム帰国

2. 少年野球教室、指導者講習会の開催事業

（1）JA全農WCBF少年野球教室の開催

全国農業協同組合連合会（JA全農）の特別協賛事業として、財団が主催して毎年開催している野球教室。本年度で20年目となった。全国農協食品株式会社と全農パールライス東日本株式会社、全農チキンフーズ株式会社、JA全農たまご株式会社、JA全農ミートフーズ株式会社、雪印メグミルク株式会社の6社の協賛を得ている。

プロ野球OBの講師が、少年野球の指導者に正しい指導法を教え、子どもたちにはポジション別に投手、捕手、野手に分けて、投げる、捕る、打つ、走る、の基本を指導した。また、トレーナーが、肩やひじの障害を予防するトレーニング方法や成長期にある子どもたちの体づくりの基本を指導した。

野球教室に参加した子どもの保護者を対象に管理栄養士が栄養講座を開いて食育の重要性を話した。テーマは「成長期にある野球少年の食事について」。参加した父母たちから感謝された。

平成24年度は次の7か所で開催した。

1) 阿波市教室

期 日 平成23年10月1日（土）

会 場 徳島県阿波市・阿波球場

講 師 阿波野秀幸（近鉄OB） 市川和正（横浜OB）

水上善雄（ロッテOB） 屋鋪要（巨人OB）

吉田直人（日本オリンピック委員会強化スタッフ・トレーナー）

阿部菜奈子（管理栄養士）

参加者 少年128名 指導者37名 保護者20名

2) 三条市教室

期 日 平成23年10月15日(土)
会 場 新潟県三条市・三条機械スタジアム
講 師 阿波野秀幸(近鉄OB) 市川和正(横浜OB)
水上善雄(ロッテOB) 屋鋪要(巨人OB)
吉田直人(日本オリンピック委員会強化スタッフ・トレーナー)
山本祥子(管理栄養士)
参加者 少年165名 指導者28名 保護者29名

3) 上野原市教室

期 日 平成23年11月12日(土)
会 場 山梨県上野原市・上野原市営桂川野球場
講 師 阿波野秀幸(近鉄OB) 市川和正(横浜OB)
水上善雄(ロッテOB) 屋鋪要(巨人OB)
吉田直人(日本オリンピック委員会強化スタッフ・トレーナー)
阿部菜奈子(管理栄養士)
参加者 少年103名 指導者21名 保護者10名

4) 諫早市教室

期 日 平成24年5月12日(土)
会 場 長崎県諫早市・諫早市営野球場
講 師 市川和正(横浜OB) 西崎幸広(日ハムOB)
水上善雄(ロッテOB) 屋鋪要(巨人OB)
鈴木拓哉(トレーナー)
海老久美子(立命館大学スポーツ健康科学部教授)
参加者 少年192名 指導者23名 保護者36名

5) 射水市教室

期 日 平成24年7月7日(土)
会 場 富山県射水市・歌の森運動公園野球場
講 師 市川和正(横浜OB) 西崎幸広(日ハムOB)
水上善雄(ロッテOB) 屋鋪要(巨人OB)
吉田直人(日本オリンピック委員会強化スタッフ・トレーナー)
阿部菜奈子(管理栄養士)
参加者 少年214名 指導者51名 保護者36名

6) 新居浜市教室

期 日 平成24年9月8日(土)
会 場 愛媛県新居浜市・新居浜市営野球場
講 師 市川和正(横浜OB) 西崎幸広(日ハムOB)
水上善雄(ロッテOB) 屋鋪要(巨人OB)
鈴木拓哉(トレーナー)
海老久美子(立命館大学スポーツ健康科学部教授)
参加者 少年166名 指導者10名 保護者27名

7) 相模原市教室

期 日 平成24年9月15日(土)
会 場 神奈川県相模原市・サーティーフォー相模原球場
講 師 市川和正(横浜OB) 西崎幸広(日ハムOB)
水上善雄(ロッテOB) 屋鋪要(巨人OB)
鈴木拓哉(トレーナー)
阿部菜奈子(管理栄養士)
参加者 少年233名 指導者89名 保護者55名

(2) 三井ゴールデン・クラブ野球教室

子どもたちがけがをせず、大好きな野球に一生懸命取り組んで、長くプレーできるように、という願いを込めて、少年野球の指導者に正しい練習方法や指導方法を、実技と講義を通して身につけるとともに、野球理論を理解してもらうのを目的とした野球教室。指導者にはこの教室で学んだ正しい野球知識や理論を日常の指導に役立てて子どもたちの夢を実現する応援をしてもらいたい。

年間を通して優れた守備をしたセ・パ両野球連盟の選手たちに毎シーズン後、「三井ゴールデン・クラブ賞」を贈っている三井広報委員会(三井グループ企業24社で構成)の主催で、東京の教室は東京都軟式野球連盟が共催。大阪市の教室は大阪府軟式野球連盟が共催した。財団法人世界少年野球推進財団は両教室とも特別協力。講師は全員、三井ゴールデン・クラブ賞の受賞者。

1) 墨田区教室

期 日 平成23年10月22日(土)
会 場 東京都墨田区・錦糸町公園野球場
講 師 大矢明彦(元横浜ベイスターズ監督)
水上善雄(ロッテOB) 西崎幸広(日ハムOB)

屋鋪要（巨人OB）
吉田直人（日本オリンピック委員会強化スタッフ・トレーナー）
参加者 指導者100名

2) 舞洲教室

期 日 平成24年3月17日（土）
会 場 大阪市此花区・舞洲スポーツアイランド舞洲運動広場
講 師 水上善雄（ロッテOB） 屋鋪要（巨人OB）
矢野耀大（阪神OB） 山田久志（元中日ドラゴンズ監督）
吉田直人（日本オリンピック委員会強化スタッフ・トレーナー）
参加者 指導者113名

(3) 大正製薬野球教室

大正製薬と財団との共催による小学生を対象にした野球教室。毎年1回春に開催しているが、23年度は東日本大震災のために秋に開催をずらした。会場はいずれも埼玉県所沢市内。

① 第1回野球教室

期 日 平成23年10月1日（土）
会 場 所沢市・中野リトルリーグ専用球場
講 師 田野倉利男（ロッテOB） 西崎幸広（日ハムOB）
堀幸一（ロッテOB）
参加者 75名

② 第2回野球教室

期 日 平成24年4月7日（土）
会 場 所沢市・中野リトルリーグ専用球場
講 師 西崎幸広（日ハムOB） 水上善雄（ロッテOB）
屋鋪要（巨人OB）
参加者 75名

(4) エバーライフ野球教室

株式会社エバーライフと当財団の共催事業として、平成21年からスタートした野球教室。野球経験者から初心者までの子どもたちに野球の楽しさを

経験しながら、野球の基本を学んでもらおうという教室。野球を通して子どもたちが笑顔と健康になることがテーマ。プロ野球OBが講師となり、投手、打撃、守備の部門に分かれて、子どもたちに野球の基本を指導する。また、指導者には野球理論を学んでもらうとともに、正しい練習方法、指導方法を習得してもらう。全国各地で開催しており、本年度は次年度事業として24年11月3日に開催した教室の準備を行った。

(5) 福島中学生野球教室

公益財団法人福島市スポーツ振興公社と当財団の共催事業として、福島県内の中学生を対象とした野球教室。プロ野球のOBが基礎から中学生レベルの応用技術まで幅広く指導した。今回は東日本大震災の被災地の子どもたちを勇気づけようと開催した。放射能の影響で、屋内での開催となったが、参加者たちは技術の向上に熱心に取り組んでいた。

期 日 平成23年11月3日（祝）
会 場 福島市西部体育館
講 師 水上善雄（ロッテOB）屋鋪要（巨人OB）
西崎幸広（日ハムOB）
参加者 100名

3. 会報の発行事業

WCBF会報第38号及び第39号を発行し、財団の事業内容や活動状況を広報し、併せて協賛企業や寄付者（社）、法人会員、個人会員、構成団体会員を募った。

様 式 B5判 カラー印刷
ページ数 38号が36ページ（第21回台湾大会記念号として増ページ）
39号が24ページ
発行部数 各5,000部
発行日 38号（平成23年10月1日付）
39号（平成24年4月1日付）
配布先 世界少年野球大会参加者 開催地の台湾の関係機関
協賛企業 寄付者 WCBF会員（個人、法人、構成団体）
マスコミ 関係官庁 野球団体 その他

4. グッズ等の企画、製造、販売事業

財団がサンリオのキャラクター、ハローキティを生かしたプロ野球球団のぬいぐるみやキーホルダー、タオルなどのグッズ販売の今期の売り上げは、対前年度比10%減と大きく落ち込んだ。前年度の10%減に続いての連続2けた台のマイナスは、販売を始めて以来12年目になるが初めて。

売り上げ減の最大の要因は、販売の大きな柱の一つである阪神タイガース関連のグッズの販売が大きく減少したこと。これは開幕から低迷していた阪神タイガースが、シーズン中に一度もAクラス入りを果たせず、5位に低迷したため、阪神タイガース関連のグッズは対前年比50%減と大きく落ち込んだ。

これまで阪神タイガースの関連グッズは、全体の売り上げの20%前後を占める主力商品だった。しかし、チームの不振がグッズ販売に大きく影響し、全体の販売不振を直撃した。

セ・リーグでは、3年ぶりに日本一になったジャイアンツ関連のグッズが、東京ドームと今年度から新規展開した東京スカイツリータウンの商業施設東京ソラマチでの売り上げが好調だった。また、今シーズンから売り始めたスカイツリーと球団とのコラボ商品も順調な売り上げだった。

ヤクルトスワローズの関連グッズが本拠地の神宮球場だけでなく、ヤクルト主催の地方球場での売り上げが前年度を上回った。中日の本拠地ナゴヤドームでの売り上げもよかったが、阪神タイガース関連グッズの売り上げ減をカバーすることは出来なかった。広島東洋カープは売り上げ減だった。

パ・リーグでは、リーグ優勝した北海道日本ハムの本拠地札幌ドームと福岡ソフトバンクのヤフードーム、オリックスの京セラスタジアム、千葉ロッテのマリンスタジアムでの売り上げは良かったが、西武ライオンズの西武ドームと楽天イーグルスのクリネックススタジアムでの売り上げが前年を下回った。

以上